

企画名：「浸透性殺虫剤の生物多様性と生態系への影響に関する世界的な統合評価書」第2集の準備

団体名：IUCN 浸透性殺虫剤タスクフォース

## 1. 報告要旨

本企画は元々2部構成で、第1集では浸透性殺虫剤(農薬のネオニコチノイドとフィプロニル)の使用に関する徹底的な文献レビューを行なった。第2集では、これらの殺虫剤が防除に用いられる使用状況、効能と便益、新しい薬剤耐性の問題と可能な代替品について総説すべく、世界中の作物に適用され成功を収めている総合的病害虫管理(IPM)の技術についても触れ、一年生作物(トウモロコシ、穀物、園芸作物など)と多年生作物(果樹、蔓植物など)の両方を取り上げた。共済方式という新しい補償システムも提案したが、この手法により多くの生産者が殺虫剤の代わりにIPMを導入する際に直面する問題を解決できることが証明されている。第2集はロレンツォ・フルランらが初稿を執筆し、フランシスコ・サンチェス=バヨが初稿の構成と内容を監修した。ジャン=マルク・ボンマタンの校閲を経て、2017年9月に『Environmental Science and Pollution Research』(シュプリンガー社)に最終稿を投稿。同誌に採用された論文は、『浸透性殺虫剤の生物多様性と生態系への影響に関する世界的な統合評価書』(WIA)第2集として刊行された。

## 2. 成果物

1. [論文概要、報道発表資料 \(日本語\)](#)
2. Furlan, L., Pozzebon, A., Duso, C. et al. [“An update of the Worldwide Integrated Assessment \(WIA\) on systemic insecticides. Part 3: alternatives to systemic insecticides”](#). Environmental Science and Pollution Research. Environ Sci Pollut Res (2018).